

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1 町内会	721	31	7 町内会	206	3
2 町内会	496	9	8 町内会	57	9
3 町内会	175	12	9 町内会	172	3
4 町内会	49	4	10 町内会	185	15
5 町内会	70	1	11 町内会	255	7
6 町内会	75	2	12 町内会	157	4

世帯数計 2,618 事業所数計 100

みなと いしづ

第24号

ごみ拾い 使った物への 恩返し

(令和3年度 明るい街づくり標語)

港小5年 橋ヶ谷志音



元旦 石津浜での初日の出に大勢の人々



初日の出の後に水天宮さんへのお参り



令和3年度 ピーチクリーン大作戦



みなく〜る(石津西公園) ~コミセン屋上より~



みなく〜る(石津西公園)の遊具で遊ぶ人々

「こんにちは」

(令和3年度

明るい街づくり標語)

その一言が

地域の輪

港小6年

柴原柚月

丸山前自治会長 全国自治会連合会表彰

この度、丸山前自治会長が全国自治会連合会から表彰されました。

石巻市の人から3.11の体験を学んだ港小体育館での講演会の実施。今後も石巻市から津波問題で学んでいく道筋をつけ、焼津・石巻両市自治会連合会間で結ばれた協定の締結。更には、焼津・小川両港入口に津波の侵入を防ぐ水門設置活動の働きかけ等、人々の命を何よりも大事にする考えで活動されて来られたことへの評価だと思います。



ご苦労様 今年度で終わられる役員の皆様

お疲れさまでした

副自治会長 会計 藪崎 清	60歳で定年退職してからの8年間、副町内会長・町内会長・自治会副会長と、町内会長及び自治会の役員を務め、多くの方々との出会いや町内会・自治会の運営を知ることができ良い経験となりました。焼津に移り住んで35年、その間、自警・自主防指導員・体育委員等で24年間自治会活動に携って参りましたが、今回で引退し体が動く間は、好きな事をやり余生を過ごしたいと思います。
副自治会長 環自協 八木 俊昭	平成28年度から2年間の町内会長職と、4年間の副自治会長(環自協支部長)の計6年間を振り返り、まずは自分とかかわって頂いた多くの皆様にお礼の言葉を申し上げたいと思います。大勢の人々との出会い、活動を通して自分自身も成長し人生の勉強になりました。最近の2年間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動の制限があり大変でしたが皆様のご協力のお陰で無事、任期を全うする事ができました。有り難うございました。
3町内会長 八木 公子	楽しくもあり、苦しくもあり、色々な人との出会いで地域を広く見ることができる様になった2年間でした。皆様には何かとお世話になり、有り難うございました。
5町内会長 原崎 稔	歳の順番で回ってきた町内会長、2年間はコロナの影響で自治会活動もかなり制限がありましたが、町内会の皆様のご協力が無事務めることができました。2年目は体育委員長として体協と連絡を取り合ってやって来ましたが、これもコロナの影響ですべて中止でした。唯一残されたグランドゴルフ大会はコロナも収まりかけ準備をして参りましたが、今度は急激に感染状況が悪化し中止をよぎなくされたのが悔やまれます。
6町内会長 前島政次郎	初年度に「安心、安全な暮らしに向けて、少しでもお役に立てれば」とコメントしてから2年が経ち、新型コロナの関係で、ほとんどの行事が中止となりました。その間、第6町内会の環境維持、防災について、力を尽くして参りました。関係者の方々のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。
8町内会長 秋山 彪	町内会長・交通安全委員という大役を仰せつかりましたが、その任の重さと不安に身の引き締まる思いをしたのはついこの間のことのように思います。残念ながらコロナ感染の観点から行事が中止となりましたが、この間、職を無事務める事が出来たのも、皆様のご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。2年間大変お世話になり有り難うございました。
9町内会長 長田 弘三	漸く(ようやく)大過なく終了の目処が立ち、ほっと一息つけるな、というところが正直な心境です。会長としての役目も以前から比較しますと、あまりにも雑務的な用務が多い為に、個人の犠牲で成り立っています事を忘れてはならないと考えます。端的に申し上げれば、会長としての責務は、就任される方の様々な思いや覚悟の上に成り立っているのだと、町内会の皆様に理解頂ければ幸甚の至りです。
12町内会長 太田良高治	令和2年4月、町内会長就任早々に新型コロナウイルス感染拡大から非常事態宣言が発出され、町内活動はどのように運営していけばいいのか大変苦慮したことを思い出します。それから2年、自治会長をはじめとした自治会役員、12町内会の役員の皆様から多大なるお力添えで地域の活動を実施することができました。厚く御礼申し上げます。

若松会、紅才会(さわやかクラブ)の解散に思う

慣れ親しんだ会が解散したからと言って、皆さんバラバラにならないでください。大変でも人と人がつながり活動して行くことにより、お互いに生きる力が得られることと信じます。

「今日中にやらねば!、明日までにやらねば!、人の為にとやろう!」というような緊迫感が、生きる力を育んでくれるものです。趣味の仲間を作り自分なりに楽しむ、人を楽しませる、人が出来ないことをする、自信を持って出来ることをする。自信をもって皆で生きようではありませんか。

歌う、踊る、育てる、書く、描く、人の為のボランティア、郷土史の研究、笑う会などやってみましょう、何かを! これからも助け合う仲間を作り、生きがいを見つけましょう!(嶋)

なお、さわやかクラブの本部には個人での入会が可能です。本部での活動に挑戦をしてみても如何でしょうか。さわやかクラブの本部 (TEL 054-622-3543)

前の川の橋で歴史を探る

前の川には下記の18の橋が架かっています。前号では⑦の蔵前橋⑩日焼島橋の説明しました。今回は⑤向下橋、⑩耕雲寺橋を紹介します。地図については、前号（又はホームページのバックナンバー）を参考にしてください。

- ①臨港橋 ②新港橋 ③大水土居橋 ④宮田橋 ⑤**向下橋** ⑦蔵前橋 ⑧前の川橋 ⑨蔵見橋 ⑩**耕雲寺橋**
⑪日焼島橋 ⑫新田橋 ⑬ほほえみはし ⑭新田中央橋 ⑮モンドウ橋 ⑯桂徳橋 ⑰暁橋 ⑱祢宜島橋



⑩耕雲寺橋 平成6年3月

この橋の近くに耕雲寺というお寺が昔あったそうです。しかし、室町時代に武田勢に焼かれ、その後再興出来なかったと言われています。確かな文献は見当たりません。ただ同じ時期に信香院が武田勢に焼かれていることが、焼津市仏教会発行の書籍“焼津市の寺院”に記載されていることから、この頃同時に耕雲寺も焼かれたものと考えられます。



⑤向下橋(こうげ橋)
平成7年4月

区画整理前の前の川を挟んで下小路と向島（現石津向町の“向”は向島から）の間に架かる橋であることから、両地名の一文字ずつ取り向下橋とした、と言われています。



おでかけ支援事業

(港23自治会との共同事業)

昨年度から準備して来ましたが「おでかけ支援事業」は、令和3年11月からの試行期間も3月で終り、4月の新年度から本格的にスタートとなります。

今回の事業では「つばさ」さんから車を提供していただき、専門家による講習会等でご指導を頂いたため、安心して支援活動が出来ております。つばさ様有り難うございました。又、運営委員会の皆様にもこの1年間大変お世話になり有り難うございました。



おでかけ支援の準備の中でのお話 (恩返し)

鈴木さんと白鳥さん

鈴木春子さん：「おでかけ支援隊」の支援ボランティアさんを募った時に、白鳥さんという方が来られて、「母が、昔、石津ミニデイでお世話になりありがとうございました。」とお礼の言葉をいただきました。私は、あの時の白鳥さんの娘さんだと判り、思わず目頭が熱くなり、その時の事が蘇り大いに話が弾みました。

白鳥初音さん：私の母は、6年前に亡くなりましたが、石津ミニデイをいつも楽しみにしていました。そのお陰で私は安心して仕事が出来、本当に感謝していました。

そのお返しにと思い、“私に出来る事”はとっていた時、おでかけ支援のボランティア募集があったので、今回、ボランティアに応募しようと思いました。

数日後：鈴木さんは2枚のはがきを手に「この押し花のはがき、昔お母さんから頂いた物なの」と白鳥さんに渡され、「お母さんは皆さんといつも楽しくされていましたよ。お母さんは、押し花が大変好きだったの！」と懐かしく話が弾んでいました。

～おでかけ支援事業の準備の際の、私たちの心を温もらせる感動的な一コマ～



鈴木さんに届いていた押し花のはがき



ありがとうございます

石津中央公園前の歩道での見守り：高橋泰弘様(石津の似顔絵師) 毎日ありがとうございます。
旧JA大井川港支店前の交差点での見守り：小池様 いつもありがとうございます。

思い出のアルバム

～昭和35年頃の石津浜海岸の松林～

昭和34年2月頃に生活環境保全林として、松の苗木が植えられました。

現在はその松も大きくなり、今は保全林としての役目をしっかり果たしています。役目を果たすには樹木も長い年月を掛けねばならないと感心すると共に、潮風から石津地区を守ってくれている松の保全林に感謝しなければと思います。

(写真提供：第2町内会 小池様)



心に響く小さな5つの物語 藤尾秀昭・著 一致知出版社一

第五話 縁を生かす (最終回)

「明日は高校の卒業式です。

僕は五年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金しょうがくきんをもらって医学部に進学することができます」

十年を経て、またカードがきた。

そこには先生と出会えたことへの感謝と

父親ちちに叩かれた体験があるから患者の痛みいたみがわかる医者いしやになれると記され、こう締めくくられていた。



「僕はよく五年生の時の先生を思い出します。

あのままだめになってしまう僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。

大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、五年生の時に担任して下さった先生です」
そうして一年、届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母の席に座って下さい」

と一行、書き添えられていた。

著者の言葉 著者：藤尾秀昭

たった一年間の担任の先生との縁えん。その縁に少年は無限の光を見出し、それを抛り処として、それからの人生を生きた。ここにこの少年のすばらしさがある。人は誰でも無限の縁の中に生きている。無限の縁はぶくに育まれ、人はその人生を开花させていく、大事なものは、与えられた縁をどう生かすかである。

補足

縁を生かすこのお話は、致知出版社発行の心に響く小さな五つの物語の第五話 縁を生かす を22号、23号、今回の24号の3回にわたって、致知出版社様のご理解ご厚意によって掲載させて頂きました。有り難うございました。

港第14自治会のホームページの紹介

ホームページは、右のQRコード、又は港第14自治会で検索下さい。

石津の歴史では、「共栄会誌」「ヤシャンボー」「木屋川のほとり」等を読むことができます。石津の地域では、港小・中、小川小・中学校の校歌のピアノ演奏を聴いたり、校歌のピアノ楽譜を閲覧したり、プリントアウトができます。

その他、石津の防災、石津の活動、石津の公園の項目もあります。

※上記の「縁を生かす」の1回、2回目をお読みになりたい場合には、港第14自治会のHPの石津の活動ページの中で、バックナンバー22号、23号からご覧になれます。

港第14自治会
QRコード



編集後記

～ 「縁を生かす」の読後感想 ～

少年の深い悲しみに寄り添う先生と、その存在を支えにして自分を諦めず努力することができた少年だからこそ、生かされた縁でした。私たちの周囲にもきっと素敵な縁はあふれているのだと思います。先ずは目の前にいる人に思いやりを持って接していきたいものです。(編集委員：中村)

広報委員：嶋 芳正、太田良高治、長田弘三、安藤 聡、佐藤美代志

サポーター：大澤雅晴、石田敏広、小池 進、鈴木吉秋、中村裕美、吉田勝己

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1 町内会	715	31	7 町内会	215	2
2 町内会	488	10	8 町内会	58	8
3 町内会	172	12	9 町内会	175	3
4 町内会	51	4	10町内会	184	15
5 町内会	68	1	11町内会	255	6
6 町内会	76	0	12町内会	155	4

世帯数計 2,612 事業所数計 96

みなと いしづ

第23号

ありがとう 感謝で心の 花は咲く

(令和3年度 明るい街づくり標語)

港小4年 良知侑采^{ありさ}

さしのべよう

(令和3年度

福祉の街づくり標語)

困った人への

勇気の手

港中 三年 中村夏^か惟^い



変わり行く小川旧内港(旧魚市場の解体)



進行する小川港の津波対策の胸壁工事



8月16日の精霊送り



精霊送りを支える女性部の皆さん



コロナにも負けじと女性防災部員の活動状況



松葉清掃のグランドゴルフの皆さん

組み立て式ごみボックス (カラスいけいけ君)



日頃は可燃物、資源物の分別収集にご理解とご協力を頂きます。ありがとうございます。ところで、当自治会では衛生面や環境美化を進めるため、市の推奨する組立式ごみボックスを現在町内各所に24台設置していますが、取付けるには、①～③などの条件があります。設置を希望される場合は、町内会長さんにご相談ください。

条件として・① 交通に支障を与えない場所であること ② ボックスが風に飛ばされないよう固定出来ること ③ 最初にごみを出す人が組み立てること（回収後は回収者が折り畳んでくれます）

設置するには・毎年市の助成での設置（数に限りがある）と、全額町内会の費用での設置の二通りあります。

特徴としては・こじんまりとして外見が良くなります交通障害も無くなります。

- ・正しく使えばカラスの被害がほぼなくなります。
- ・枠はアルミパイプ製で錆びることはありません。四方はネット張りです。
- ・普段は折畳み、ごみの日に組み立ててください、非常に簡単です。

注意点として・蓋が閉まらない状態までごみを入れないこと、衣類は不燃物回収時に出して下さい。

消防団活動 ～人創りの場～

第11分団分団長 影山直樹



昨今、コロナ禍で皆様の行動も制限がかかり大変な状況になっていると思います。消防団としてもこの状況下で活動にも制限がかかっておりますが、そんな中でも災害時には、いち早く駆けつけてくれる分団員達がおります。

私は消防団員になるまで消防団のことは何一つ知りませんでした。むしろ、面倒なことを頼まれたぐらいにしか思っていませんでした。しかし、活動をしていく中で、消防団員になる人たちは人のために思い行動できる人たちの集まりであることを

知りました。私は消防団員の仲間になれたことを誇りに思います。それと共に成長できたと自負しております。石津地区の皆様の安全と財産を少しでも守るために、消防団活動に興味、関心のある方、18歳以上の男女なら誰でもなれます、私たちの仲間になってみませんか。

第1町内会の紹介

～新田島の宝物～

第1町内会長
吉田一夫

私たちの住む第1町内会は大井川により形成された平野に位置し、稲作地帯として発展してきました。稲作をするため邪魔となる石を取り除き、積み上げた所がボタとなり、ボタは畑や林などとして活用されて来ました。その際、川原の上に作られた田は耕作土が浅く、河原田、日焼島と言う地名の由来となっています。繰り返される大井川の氾濫は収穫間近の作物を流し、このような場所の田は元の河原に戻ってしまうこともたびたびでした。

石津八幡宮の西隣の新田の共有地には津島神社、地蔵菩薩、庚申塔、五輪塔が祀られています。この内の五輪塔は元々池ヶ谷街道の脇にありました。旅の女性が行き倒れになったため、地域の人達が手厚く葬ったと言われていました。自然石を塔に削り出し五本の線を水平に刻んであります。この五輪塔は婦人病に聞くとの評判で【流行り神】となりました。病気平癒を願いお供えをし、よくなると人々はお礼として赤い絹糸を掛けたと言われていました。平和で安全、安心な現代に生活する私たちは、遠い昔の先祖の厳しい生活を想像するとともに、歴史も知りながら感謝の気持ちで過ごしたいと思っております。



前の川の橋の名前で歴史を探る!



前の川に掛かる⑦蔵前橋、⑪日焼島橋にまつわる歴史を紹介します。小川村史によると、前の川は、大富村、祢宜島と石津の境にある小さな泉より発し、田園の水を合わせて五右衛門升田の地先にて木屋川河口に入ると記されています。

前の川に掛かる橋は、次に掲げる①～⑱があります。

①臨港橋S63/3 ②新港橋H2/7 ③大水土居橋H3/3 ④宮田橋H10/3 ⑤向下橋H7/4 ⑦蔵前橋H11/3
 ⑧前の川橋H30/3 ⑨蔵見橋H5/3 ⑩耕雲寺橋H6/3 ⑪日焼島橋H6/3 ⑫新田橋H5/3 ⑬ほほえみはしH7/3
 ⑭新田中央橋H16/3 ⑮モンドウ橋H17/3 ⑯桂徳橋H7/8 ⑰暁橋H16/3 ⑱祢宜島橋H10/3
 です。

⑦蔵前橋の由来は、小川村史によると、江戸幕府の時代、年貢を村役人が取り立て、領主に引き渡すまで積み置く倉庫を「郷蔵（ごうぐら）」といい、その郷蔵が石津村字本田、今の蔵前橋の北脇にあり、郷蔵の前にある橋として「蔵前橋」と名付けられたようです。なお、郷蔵の跡地には、その後、農協や尋常小学校ができ、尋常小学校の石碑が今も残っています。

⑪日焼島橋についてはヤシチャンボーによると、「日焼島」という小字にある橋として名付けられたようです。「日焼島」と呼ばれる小字は作土がほんの15～20センチ程で、夏には水田が湯になる程高温化するので、稲の根が腐り秋になって実りは始める前に枯れる有様であったことから、「日焼島」と名づけられたようです。

人物紹介

あゆみ 佐野亜友美さん (11町内会)

第22回 しずおか市町対抗駅伝競走大会出場者



今年も12月4日に静岡市で「しずおか市町対抗駅伝競争大会」が行われます。この大会は、2000年11月23日に第1回大会が始まり、この時は市の部では富士市、町村の部では浅羽町が優勝しました。焼津市も参加しており佐野亜友美さんは、第1回大会より市の代表としてこれまで16回も参加しています。

今年もコロナ禍の中ではありますが、第22回大会の開催が予定されています。佐野さんは3児の母でありながらも、石津の海岸をトレーニングで疾走し日頃より自己鍛錬に励み、この度、市の選

考会を見事突破し選抜されました。当日は「一般女子」の部で駿河路を駆け抜けます。ことしも駅伝競争大会を通じ、県内各市町相互のさらなる交流やスポーツ振興のため、市の代表として出場します。港14自治会の佐野さんに皆さんでエールを送ってください。

思い出のアルバム

～昭和35年頃の石津浜海岸の堤防～

昔、石津浜海岸の堤防は蛇籠(じゃかご)に石を入れた堤防でした。昭和41年9月の台風26号の被害を受けた後、対策が講じられ、昭和41年～44年にかけて今の石津防潮堤が出来上がりました。

現在はコンクリート製の堤防が、石津から和田浜に続いています。又、この石津浜海岸の堤防は、富士山を眺めながらの散歩コースとしても多くの人に親しまれています。

(写真提供：第2町内会 小池さん)



ありがとうを言います

水天宮前での見守り 登校時：松浦勇様、白柳猛様、下校時：鈴木一夫様12年間ありがとうございます。

松の小径信号での見守り 登校時：良知秀彦様、子供会の皆様(交代制) 毎日ありがとうございます。

心に響く小さな5つの物語

藤尾秀昭・著 一致知出版社

第五話 縁を生かす (今回は、22号に続き2回目です)

ダメと決めつけていた子が突然、
深い悲しみを生き抜いている生身の人間として、
自分の前に立ち現れてきたのだった。
放課後、先生は少年に声をかけた。
「先生は夕方まで仕事をやるから、
あなたも勉強していかない？
わからないところは教えてあげるから」
それから毎日、
少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。
授業で少年が初めて手をあげた時、
先生には大きな喜びがわき起こった。
少年は自信を持ち始めていた。
クリスマスの午後だった。
少年が小さな包みを押し付けてきた。

後で開けてみると、香水の瓶だった。
亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。
先生はその一滴をつけ、
夕暮れに少年の家を訪ねた。
気がつくと飛んできて、
先生の胸に顔をうずめて叫んだ。
「ああ、お母さんの匂い！
きょうはすてきなクリスマスだ」
六年生では先生は少年の担当ではなくなった。
卒業の時、
先生に少年から一枚のカードが届いた。
「先生は僕のお母さんのようです。そして、
今まで出会った中で一番すばらしい先生でした」
それから6年。またカードが届いた。 次回号に続く

次回(最終回)、届いたカードには何が? 先生と少年に紡がれた縁が導く結末をお楽しみ下さい。
この小さな物語は致知出版社のご厚意により掲載させて頂いています。

編集後記

令和3年最後の「みなといしづ」の発行です。今年はコロナ禍に東京オリンピックが開催され、選手の活躍を拝見し、感動をいただきました。一方、コロナ感染予防のため市や自治会の地域行事の多くが中止となりました。来年こそ、港第14自治会の元気な活動状況の記事を掲載できることを願うところです。皆様のご意見や地域情報をお待ちしております。

広報委員：嶋芳正、太田良高治、長田弘三、安藤聡、佐藤美代志
サポーター：大澤雅晴、石田敏広、小池進、鈴木吉秋、中村裕美、吉田勝己

	世帯数	事業所数		世帯数	事業所数
1町内会	703	31	7町内会	215	2
2町内会	488	10	8町内会	58	8
3町内会	171	12	9町内会	172	3
4町内会	51	4	10町内会	184	15
5町内会	68	1	11町内会	255	6
6町内会	76	0	12町内会	152	4

世帯数計2,593 事業所数計96

みなと いしづ

第22号

ありがとう その一言 笑顔咲く

港小6年（現港中1年）近藤ひより

つくりたい

誰もが笑う

いい場所を

港小六年（現港中一年）寺西 優奈



退任される町内会長さんの挨拶



小川港 胸壁工事の状況



防災資機材点検・運転確認



水天宮（八幡宮）の清掃ご苦労様です



青少年の家での避難についての話し合い



交通安全 毎月10日の立哨 6町内会の皆さん

上段・左縦の言葉は明るい街づくり推進会が小・中学生から募集した標語優秀作2点を掲載させて頂きました。

防災はその地域から

港第14自治会

会長 嶋 芳 正

3.11の地震津波、台風時の高潮水害、牧之原での竜巻、強風時の火災といろんな角度で災害がおきます。

防災の考えを見直し、万一の為にこの地域の皆様の協力・団結心、助け合いの精神を高め皆さんの力で乗り切らなければなりません。地域の事は地域が知っている。防災はその地域から。



令和3年度 港第14自治会の三役・町内会長

コロナウイルス禍2年目に入りますが、明確な先が見えない状況が続き、行事の中止により活動のノウハウが受け継がれて行かない事が、一番心配です。“活動を忘れたカナリヤ”に成らない様に活動再開の準備をしていきたいと思ひます。

新役員紹介

1 町内会長 吉田 一夫	・コミセン会計 ・環自協担当	昭和に始まった区画整理も完工率も100%となり新しい街が生まれました。ゴミや雑草のない美しい街、子供やお年寄りの見守りを皆がする優しい街、そんな心の街を目指して頑張ります。
2 町内会長 石崎 毅	・社協 ・防災担当	初めての仕事で、分からないことが多く日々苦勞しています。そんな時は、前町内会長からアドバイスを頂きながら、やっています。皆様のご協力をお願い致します。
4 町内会長 土屋 義雄	・環自協 ・福祉担当	自治会に携って1ヶ月になりますが、何がなんだか夢中で、振り返る暇もありません。浜の5・6町内会長の二人に声をかけてもらって色々教えて頂いて少しは何かが見えて来た様な気がします。これからは自治会の皆さんと協力し頑張ります。
7 町内会長 森 昭治	・防災 ・交通担当	私は、水天宮前で生まれ小川小学校、中学校を卒業しこの地域にはお世話になった先輩、仲間が多くいます。そのためにも優しく思いやりのある街創りに頑張りたいと思ひます。
10 町内会長 安藤 聡	・交通 ・広報担当	区画整理事業により、日々景色が変わっています。道路も整備され、新しい家も建ち始めています。従来の住人とのコミュニティ（防災、自治会活動）の有りがたが、重要かと思ひます。
11 町内会長 佐藤美代志	・防災 ・広報担当	石津港町に住みはじめ約40年になりますが、地域のことをあまり知らないため戸惑うことがよくあります。今年、津島神社例祭の当番町内会ですが、いろいろ教わりながらやっております。
女性部長 小林友絵	8 町内会	今後は支部長の皆さまのご協力を賜り無事に務めたいと思ひます。1年間何卒よろしくお願ひ申し上げます。
体育委員長 森田将行	6 町内会	2年間宜しくお願ひ致します。
保健委員長 山田和代	8 町内会	新型コロナの影響で、なかなか思うように活動する事が出来ませんが、こんな時だからこそ、地域の仲間がいるということをおもひ起こし、だれ一人取り残さない、温かい地域づくりを！

第11町内会の紹介

第11町内会は20組、約260世帯の比較的大きな町内会です。多くの世帯は、港小中学校が新設された頃から居住している、やや高齢者が多い世帯状況となっております。町内会活動では、地元の水天宮や津島神社などの祭典を担ったり、港公民館周辺の除草、干潮時間帯に合わせた川の清掃や地域防災などに力を入れています。



津島神社ちようちん祭

自治会活動

4・18	港第14自治会総会	町内会長、役員
5・25	町内会長会。河川課のハザードマップの説明	町内会長、役員
5・17/6・17	おでかけ支援運営委員会	民生委員、町内会長の一部
6・11	お助けネットワーク	民生委員、町内会長
6・18	青少年の家との避難時についての打ち合わせ	防災委員長、副委員長

（「避難勧告」と「避難指示」）⇒「避難指示」に

2021年5月20日、改正された災害対策基本法が施行され、市町村が発令する避難情報に変更されました。これまでの「避難勧告」「避難指示」順序が統一され、今後は「避難指示」のみとなります。これまでの避難情報の発表方法では、本来避難すべきタイミングで避難せず、逃げ遅れによる被災者が発生しています。また、5における避難行動は、これまでの「災害発生情報」に変わり「緊急安全確保」なります。災害が切迫又は、発生している状況を示し、避難出来ない人は、今いる場所で安全確保をして頂くと言うものです。



オオキンケイギク (外来危惧種)

北アメリカ原産の外来種で、荒野でも元気に生育するほど生命力が強い。黄色の綺麗な花、石津の地域でもところどころで見られます。残念ながら外来危惧種で栽培が禁止されています。見つけたら、種が散らないようにビニールの袋に入れてゴミとして処分してください。

おでかけ支援 (14・23自治会の共同事業)

港地域づくりで、一人住まいの高齢者や、買い物の移動に困っている皆様に「おでかけ支援事業」を計画しています。初めての事なので規模は大きく出来ませんが、運営検討委員会で意見交換しながら、9月頃から実証実験としてスタートしたいと考えています。高齢者の皆さんは困りごとが多いかと思ひます。皆様のご要望を聞きながら港地域をよりよい生活ができる、人が助け合える地域、人間関係にしたいと考えています。



思い出のアルバム

建前（棟上げ式）

上棟式、家屋の守護神と大工の神を祀って、棟上げを無事に終わられたことに感謝する、棟上げ式とも呼ばれます。神恩に感謝すると同時に、施主は建築現場の関係者に料理やお酒をふるまったり、手土産で労いの気持ちを表します。

昔は親せき一同が協力して建前をし、餅まきや写真のように最後は賑やかにお祝いをしたものです。

(写真提供：原崎さん、海竜丸)



ありがとうございます

丸山雅史様 1町内会から港小学校近くまで子どもの見守り、毎日ありがとうございます。

港第14自治会会員の皆様 水天宮、八幡宮の当番制で境内の清掃ありがとうございます。

港っ子サポーターの皆様 港小学校の図書整理・読み聞かせ、通学時の交通安全の見守り、草取り・木の剪定、計47名の皆様ありがとうございます。

心に響く小さな5つの物語

藤尾秀昭・著 一致知出版社

致知出版社様のご厚意を頂き、五話の内の『第五話 縁を生かす』を今号から3回に分け掲載する事にしました。同じこの地に生きる”縁”を持つ私達、心の琴線に触れる物語をお楽しみ下さい。

- 第一話 夢を実現する
- 第二話 喜怒哀楽の人間学
- 第三話 人の心に光をともし
- 第四話 人生のテーマ
- 第五話 縁を生かす

第五話 縁を生かす

その先生が5年生の担当になった時、一人、服装が不潔でだらしく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。ある時、少年の一年生からの記録が目に残った。「ほがらかで、友達が好きで、人にも親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ」とある。間違いだ。他の子の記録に違いない。先生はそう思った。二年になると「母親が病気で世話をしなければならず、

時々遅刻をする」と書かれていた。三年生では「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする」三年生の後半も記録には「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり、四年生になると「父親は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子供に暴力をふるう」先生の胸に激しい痛みが走った。次号(23号)へつづく

編集後記

本屋さんで涙しながらの立ち読み、買い求め家に帰り改めて読み直し、地域の皆様にも読んで頂きたいと思い、致知出版社様にこの港第14自治会の広報への掲載許可のお願いをしたところ、一つの物語でのご了解を頂きました。5話どれも人の心を動かせる内容です。(鳴)

広報委員：鳴芳正、太田良高治、長田弘三、安藤聡、佐藤美代志
サポーター：大澤雅晴、石田敏広、小池進、鈴木吉秋、中村裕美、吉田勝己